

編集後記

本号は、「CTHA/CTAPの歴史と今日的意義を考える」ということで企画した。CTAPの歴史は金沢大学松井 修 教授が1981年日本消化器病学会誌に掲載したのが世界初の報告である。それ以来、CTの普及とともにCTHA/CTAPの果たしてきた役割は極めて大きい。本法を用いることにより肝臓の動脈血流と門脈血流の分離評価が可能であり肝結節性病変のみならず肝臓全体の血流動態異常を詳細に評価することが可能となった。また、IVR-CT、もしくはangio-CTといわれる装置が日本国内で普及し、極めて簡便にCTHA/CTAPを得ることができるようになってきたことも日本ならではのことである。ただし、このangio-CT装置があまり日本以外では普及しなかったことは、日本と諸外国との肝腫瘍や肝血流動態への緻密なアプローチがいかに異なるかということを実に語っている事実であり極めて興味深い。CTHA/CTAPの臨床的役割としては転移性肝臓の検出や肝細胞癌のステージングに加え、もう1つの大きな柱として肝細胞性の結節が門脈支配か動脈支配かを明らかにすることができ、それにより悪性度が異なるという松井教授一門の仕事から明らかになってきたわけである。すなわち、このようなことを通じて肝臓の多段階発癌と血流動態とが極めて関連することが明らかにされた。

ただし、一方では最近の流れとしては包括医療化ならびに64列のMDCTやSPIO-MRI、EOB-MRIなどの普及やSonazoidを用いた造影エコー法などの普及に伴い、その役割がやや変貌しつつある。Sonazoid造影エコー法は標的結節に関しては結節内の血流検出感度に関してはほぼCTHAと同等の動脈血流評価が可能となってきた。また、CTHA/CTAPの欠点としてあまりにも小さな病変を捉えることが可能になった反面、造影剤を圧入することによるshuntや偽病変の描出も増加し診断の上ではかえってマイナスとなる場合もありoverall accuracyでみた場合、CTHA/CTAPとMDCT+EOB-MRIとが実際の臨床においてどのくらいの違いがあるかについては議論の分かれるところである。そのようなことからCTHA/CTAPは最前線の実地臨床においてはもはや必須ではなくなる可能性も指摘されている。

ただし、このような詳細な動脈血流、門脈血流動態の分離評価をEOB-MRIやMDCTを用いても到底評価し得ない病態や腫瘍があることも確かである。また、まったく別の使用方法として肝細胞癌の経カテーテル治療において栄養血管を確実に同定し、亜区域・区域塞栓療法を正確に行うといったうえでは極めて有用なツールであることも間違いない。同じ血管造影をするのであればangio-CT装置を使ってCTHA/CTAPで確認しながらTACEを行うことは緻密で、かつ正確な経カテーテル治療につながる。そのような意味において少なくとも日本においてはCTHA/CTAPの意義は確実に存在するといえるであろう。ただ、CTHA/CTAPの開発当初から現在までの流れの中では他のmodalityの進歩とともにその役割は徐々に変化しつつあることも確かである。

今後、「最前線の一般病院における実地臨床に本当に必要かどうか」という議論も、もちろん重要であるがアカデミックな意味を含めた「病理・病態の本質に迫る」という意味での有用性は区別して論ずる必要があると思われる。少なくとも肝臓を専門とする先端施設においては今後もCTHA/CTAPの役割は確実に存在すると思われる。(工藤正俊)

編集顧問

有山 襄 竹原 靖明 望月 福治

編集幹事

二村 雄次 角谷 眞澄 神澤 輝実 工藤 正俊

国土 典宏 柳野 正人 真口 宏介

山雄 健次

編集委員

朝倉 徹 跡見 裕 猪狩 功遺

石川 洋子 市川 智章 伊東 克能

乾 和郎 今井 裕 植木 敏晴

太田 哲生 岡崎 和一 梶原 建熙

兼松 雅之 川崎 誠治 蒲田 敏文

鬼島 宏 木下 壽文 木村 理

熊田 卓 小井戸一光 近藤 哲

坂元 亨宇 佐々木 洋 下瀬川 徹

須山 正文 高安 賢一 高山 忠利

竹内 和男 武田 和憲 田中 雅夫

土井隆一郎 長川 達哉 信川 文誠

長谷部 修 廣橋 伸治 本田 浩

眞栄城兼清 前谷 容 松井 修

村上 卓道 森 宣 森安 史典

柳澤 昭夫 山下 康行 山野 三紀

竜 崇正 渡辺 五朗 (五十音順)

掲載広告索引

(五十音順)

アステラス製薬(株)	1 頁
エーザイ(株)	表 2
オリンパスメディカルシステムズ(株)	6 頁
第一三共(株)	2 頁
テルモ(株)	32 頁
東芝メディカルシステムズ(株)	表 3
バイエル薬品(株)	表 4
ボストン・サイエンティフィックジャパン(株)	24 頁

肝胆脾画像(第11巻第1号)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

☎ 本誌編集室直通 (03)3817-5714 (担当)藤田・中田

FAX (03)3815-7802・3815-7982

E-mail: gazo@igaku-shoin.co.jp

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/kantansui/

2009年1月15日発行(隔月15日発行)

定価 3,675 円(本体 3,500 円+税 5%)

2009 年 年 ぎ め 予 約 購 読 料 21,930 円(年間 6 冊)(送料弊社負担)

Medical Finder パーソナルオプション付 28,500 円

(税込定価・送料弊社負担)

☎ 販売部直通 (03)3817-5659

振替口座 00170-9-96693

印刷所 (株)アイワード ☎(011)241-9341(代)

広告取扱 (株)文京メディカル ☎(03)3817-8036(代)

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. ©2009, Printed in Japan.
- 本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有いたします。
- JCLS (株)日本著作出版権管理システム委託出版物
- 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話 03-3817-5670, FAX 03-3815-8199)の許諾を得てください。
- 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。